■ 沼間守一 政治家。演説・討論会実行の先駆者。自由民権都市派の主流として“西の立志社”に対し“東の嚶鳴社”。

ぬまもりかず

順天堂始・1843= 江戸牛込で幕臣高梨仙太夫の第二子に生まれ、

阿部正弘首座1845= 2歳 : 幕臣沼間平六郎の養子となる。

万次郎帰国・1852= 9歳 :

ペリー来航・1853= 10歳 :

安政の大獄・1859= 16歳 : 養父が長崎奉行属員として長崎に赴任するのに同行し、英人に英書(主に兵書)を学ぶ。

桜田門外変・1860= 17歳 :

遣欧使節・1861= 18歳 :

帰府後、軍艦頭取矢田堀景蔵から海軍技術を習得。横浜で米医ヘボンに入門し、もっぱら兵書に親しんだため放逐されかけたが、ヘボン夫人が彼の才気を愛して救われ、英語を教えた。

薩摩藩士密航1865= 22歳 : 江戸幕府が横浜に設立した陸軍伝習所の歩兵科に応募、仏国士官の訓練を受け歩兵頭並に進んだ。

明治維新・1868= 25歳 : 鳥羽・伏見の戦いで敗北後、主戦派に属して江戸を脱走、大島圭介らと板垣退助・谷守部(干城)らの討幕軍と善戦。維新後、軍事的才能を惜まれて放免され、高知藩に聘せられる。

初の日刊新聞1870= 27歳 :

廢藩置県・1871= 28歳 : 廢藩置県後、横浜で生糸・両替商を営んだが、

学問のすすめ1872= 29歳 : *井上馨の推薦で大蔵省租税寮7等出仕となり横浜税関詰。守一と改名。司法省に転じ河野敏鎌らと欧州視察に随行、河野と胸襟をひらき英法と演説術を学び、帰国後、元老院議員に転じた河野のひきで同院権大書記官となる。在任中鶴岡(酒田)事件を解決し名声をあげる。

明治6年政変 1873= 30歳 : 河野らと法律講義(習)会を設立、演説・討論会実行の先駆となる。

大久保暗殺・1878= 35歳 : 同会を{嚶鳴社}と改称。

琉球処分・1879= 36歳 : *自由民権運動に専念するために官を辞す。{嚶鳴雑誌}創刊、“西の立志社・東の嚶鳴社”と称せられて都市民権派の主流となる。{横浜毎日新聞}を買収して東京に移し、{東京横浜毎日新聞}と改題して社長となる。神田区から東京府会議員。

..... 1880= 37歳 : 府会副議長に当選。講法と代言を兼ねた{九臯社}を設立。

明治14年政変1881= 38歳 : 自由党創立委員となるが意見が合わず、

新体詩抄・1882= 39歳 : *立憲改進黨の創立に{嚶鳴社}を率いて参加し、国約憲法・一院制を主張して党内最左派の領袖となる。東京府会議長。

秩父事件・1884= 41歳 : 党内に解党論が起るや断固反対して孤守したが、

初の対等条約1888= 45歳 :

帝国憲法発布1889= 46歳 :

帝国議会始・1890= 47歳 : 脳病に肺炎を併発し没した。